

No. 9月ー6

復 命 書

18年9月6日

静政会 代表

伊東 稔浩 様

議員名 佐藤 成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

記

1 日 程

18年 9月 4日(月) ～ 5日(火)

2 視 察 先(都市名、視察施設等を具体的に)

東京都品川区

景観色彩計画研修会参加

3 視 察 内 容(調査事項、調査結果を具体的に)

「景観設計における色彩の役割」

「景観色彩計画のために必要なツールや知識」

「景観色彩実態調査のためのカラーシステム」 等

4 そ の 他(所感、感想等)

別紙参照

色彩計画のためのシステムとデーター

『景観設計における色彩の役割』

(株) 横川環境デザイン事務所・横川昇二代表
取締役所長

環境・環境色彩の意義とその背景。つまり、現状と課題である。①色彩豊かな生活環境の拡大と混乱②自然環境や歴史、伝統環境の保全と活用③都市化や乱開発による景観、環境破壊④公共性や関係性を大切にする市民意識⑤景観法の施行と景観性への意識の高揚が確認できるという。

そんな中、色彩学・色彩術・色彩法の連携、つまり論理と実務と結果が大事なことだ。景観の保全と創出と育成とは、生活と生産と生命に係わることで、そのバランスが必要。環境デザインとは、環境文化や地域景観を重視し、美しく快適な環境づくりを目指し、関係性と総合性を重視し場に新しい意味づけをすることであり、個々の物のデザインではなく、“物と場と人”そして“時”の適切な関係の中に価値を見出し、

場の変換により新たに場に意味づけをすることを目指すものである。その3つのパラダイムは、①カルチャーデザインで、伝統と現代の文化的多様性の融合②ユニバーサルデザインで、人間と建設環境の関係強化③グリーンデザインで、人工的な環境と自然生態系の共存である。歴史の重さを持つ静岡市・この3つをどう融合させていけるかが鍵だと痛感した。

次に、環境色彩計画。実は、これが1番興味のあるテーマであり、知りたいところであった。

①環境色彩計画とは、生活環境を構成するすべての色彩を対象とし、環境デザインにおいて位置付けられる色彩計画であり、美しく快適な空間作りや景観作りを目的とする。②色彩の公共性、自然環境や歴史、文化環境などとの関係を重視する色彩計画であり、場所性や地域性を配慮しながら秩序ある色彩環境を創出するものである。

次に、実際の色彩計画の方法論へと進んだ。

カラーイメージ法・カラーパレット法・カラーハー

モニー法などその手法の特徴、やり方が説明された。また、カラーコンセプト法・カラーバランス法・カラーマインド法など計画性や戦略性、精神性などの色彩術としての方法・色彩、色材活用と計画の基本的な姿勢を示す方法などの説明もあった。

いずれにしても、その手法はどんな場合に向くのか、どう使用すると効果的なのかなど、熟考、熟練が必要と実感した。

『景観色彩計画のために必要なツールや知識』

(財) 日本色彩研究所 赤木重文部長

私たちの生活の中で、目に映るあり様＝景観であり、人が、風景とともに作りあげてきたものである。色彩計画の流れは①目的②資料収集③現地調査④基本方針の作成⑤色彩設計案の作成⑥カラーシュミュレーションの作成⑦評価実験⑧検討⑨決定⑩色彩管理となる。このセミナーでは、色のものさしはJIS標準色票・マンセルシステム。とPCCSを

使用しての説明で進められた。具体的な説明などは、江森敏夫研究員がされた。私としては、J I S 標準色票・マンセル表^色系・色相・明度・彩度・表示方法・色立体・等色色相・等明度面・など復習できた感じ。景観測色データー事例紹介はかなりおもしろいものだった。このように現実にあるものを測色するのは、かなり根気のいることであり、なかなか、プロットするのはむずかしと感じた。

また、先の赤木重文氏は、なにはともあれ、色彩設計のポイントは“配色効果であり、色彩調和”であると。配色調和の形式は、同一・類似色相配色と対照色相配色であり、トーンによる配色もしかり。その基本の説明であった。その手法は、ベースカラーの設定、アソートカラーの決定、アクセントカラーの検討になる。配色事例が何点か説明された。その後、名取和幸課長から、評価システムの説明が続いた。あらゆる環境要素は公共景観と断定した表現が印象的だった。単なる思い付きの色は駄目だ。調査

計画にあった問題点の明確化が大事なことだ。知覚効果や感性効果が大事なことだとの説明であったが、中でも加齢効果や色覚異常による見え方に興味を抱いている私は、もう少し情報収集が必要だと思った。外部評価のさまざまな手法。SD法などはよく使われている。いずれにしても、なぜこの色なのか、なぜ景観形成が必要なのか説明できることが何よりも大事なことで改めたと思った。アイセル21の赤い柱の意味？清水港色彩計画波及効果など調べてみたいと思っている。2日目の『景観色彩計画の実際』は研修センターの近くの外に出たの樹木の色相、明度調査の実践。パソコンを使っの、同一建築物の各グループの色彩計画と評価など実際役立つ様なシュミュレーションによるワークショップで、かなり変化がありおもしろいものでした。公共の建物＝スタンダードな色使いですが、1歩すすめて、ランドマーク的なものにするためには、どのような色使いができるのかの実践でした。

景観色彩計画のためのシステムとデータ

景観色彩計画の実際

2006年9月4日(月)・5日(火)



JAPAN COLOR RESEARCH INSTITUTE

財団法人日本色彩研究所

「景観三法」の施行により、全国で視環境を整備していく動きが活発になってきました。私たちの身の回りを取り巻く都市景観の中の住宅やビル、自然景観の中に立つ構造物、広告物や看板、これらは「形状」や「材質感」とともに、「色彩」の扱い方次第で評価が変わります。景観を構成する要素の中で、「色彩」は「形状」や「材質感」と比べ、感覚的なものとして扱われ、計画的にコントロールしていく対象としての扱いをされておりました。このセミナーでは、当研究所が長年培ってまいりました景観のカラープランニングとコントロールの手法について具体的事例をご紹介します。もちろん2日間通してご参加いただければ、景観色彩計画の考え方から色彩選定の実際に至るまで、すべてをご理解いただけることと存じます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

<主な対象>

- ・各自治体の景観/環境問題担当職員
- ・都市計画、まちづくり、景観問題などに携わる方
- ・建築設計、店舗開発などに携わる方

開催要項

- 期 日 2006年9月4日(月)・5日(火) 10:00~16:45
- 会 場 きゅりあん(品川区立総合区民会館)4階研修室 東京都品川区東大井5-18-1
(JR京浜東北線・東急大井町線・りんかい線「大井町」駅前)
- 定 員 各20名(先着順)

■受講費

	1講座(1日)のみ受講	9/4(月)と9/5(火)を 2日連続で受講する場合
一 般	31,500円(税抜30,000円)	56,700円(税抜54,000円)
日本色彩研究所 賛助会員 及び 色彩指導者認定者	28,350円(税抜27,000円)	51,030円(税抜48,600円)

■申込方法

裏面の受講申込書に必要事項をご記入の上、下記宛までお申込みください。
お申込みはFAXまたは郵送、E-mailでお願い致します。電話でのお申込みは受け付けません。
申込受付後、折り返し『受講証』『請求書』をお送り致します。
なお、当日欠席の場合、受講費は返却致しませんので予めご了承ください。

- 受付締切 8月28日(月)必着 お早めにお申込み下さい

- 申込先 財団法人日本色彩研究所 セミナー係
〒339-0073 さいたま市岩槻区上野4-6-23
TEL.048-794-3817 FAX.048-794-3901
E-Mail: seminar.info@jcri.jp

1476

セミナー関連の最新情報・年間スケジュールが
ご覧いただけます。
ホームページからのお申し込みも出来ますので
併せてご利用下さい。URL: <http://www.jcri.jp/>